

令和 5 年 6 月 20 日現在

機関番号：13201

研究種目：基盤研究(C)（一般）

研究期間：2018～2022

課題番号：18K01749

研究課題名（和文）地域文化ストックアプローチによる創造的クラスターモデル構築に関する研究

研究課題名（英文）Research on building a creative cluster model using a regional cultural stock approach

研究代表者

安嶋 是晴（YASUJIMA, Yukiharu）

富山大学・学術研究部芸術文化学系・准教授

研究者番号：40401880

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 2,700,000円

研究成果の概要（和文）：本研究は、伝統産地の動向分析のためのツールとして、新たに打ち立てた「地域文化ストック」の有効性を明らかにすることである。そして地域文化ストックに影響を与える4つの要素の分析を行い、最終的に総合化し産地再生の創造的クラスターモデルの構築を試みた。具体的に4つの要素である（1）主体、（2）技術、（3）制度、（4）地域、の実態と効果を実証的に検証した。

研究成果の学術的意義や社会的意義

本研究は、一時的かつ局所的な産地再生の改善案を提示するのではなく、地域で蓄積されてきた生活文化を含めた産地全体の再生の枠組みを提示するために、地域文化ストックという地域包括的な分析ツールを用いることで、文化的な資源の共有関係が生活と生産に相乗効果を生み、その循環が創造的クラスターモデルを形成していることを明らかにした点である。その要素を精緻に分析する本研究は、地域創生にも活路を拓くものである。

研究成果の概要（英文）：The purpose of this study was to clarify the effectiveness of the newly developed "regional cultural stock" as a tool for analyzing trends in traditional production areas. We then analyzed the four elements that influence the regional cultural stock, and finally synthesized them in an attempt to construct a creative cluster model for the revitalization of production areas. Specifically, we conducted surveys and interviews to empirically verify the actual conditions and effects of the four elements: (1) entities, (2) technology, (3) institutions, and (4) regions.

研究分野：伝統産業

キーワード：伝統産業 伝統文化 地場産業 輪島塗 井波彫刻 産業集積 伝統技術 職人

科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属します。

1. 研究開始当初の背景

これまで伝統産地の研究では、産地の実態把握が大半で、改善案も効率性を重視する視点からなされたものが多い。しかし、消費者ニーズや価格競争に対応した産地は、むしろ市場原理の波に飲み込まれ、消滅の危機に直面するとともに、生産や流通を支えてきた人的ネットワークも希薄化するなど、産地社会の衰退を助長する悪循環を生んでいる。

これに対して、本研究が調査対象とする輪島(漆器)と井波(木彫)は、生産額は減少傾向にあるものの、従来の徒弟制度が継続し、生産・流過程での人的ネットワークを核として産地を維持するとともに、そのつながりが地域活動や葬祭儀礼を支える役割をも担っている。これらの産地では、独特の一体感を醸成しており、A.マーシャルが指摘する「産業的雰囲気」が産業の外部性として機能しているといえるのではない。

この「産業的雰囲気」を具体的な表象とするため、本研究では「地域文化ストック」という概念を用いる。地域文化ストックとは、一般的な文化資本に、産地内での人のつながりから生じられる文化的な共有感を加えたものと定義した。これは、P.ブルデューの示す「身体化」「客体化」「制度化」の文化資本に、人のつながりによって生じられる地域固有の文化的共有意識の「地域化」という視点を加えたものである。この地域文化ストックが生産活動と地域生活を交互に循環するモデルは、産地を総合的に分析する枠組みを提供するもので、この発想は社会統合を意図するスロスピーの文化資本論を発展させると同時に、産業と生活を一体化させた地域産業創生論に貢献するものでもある。

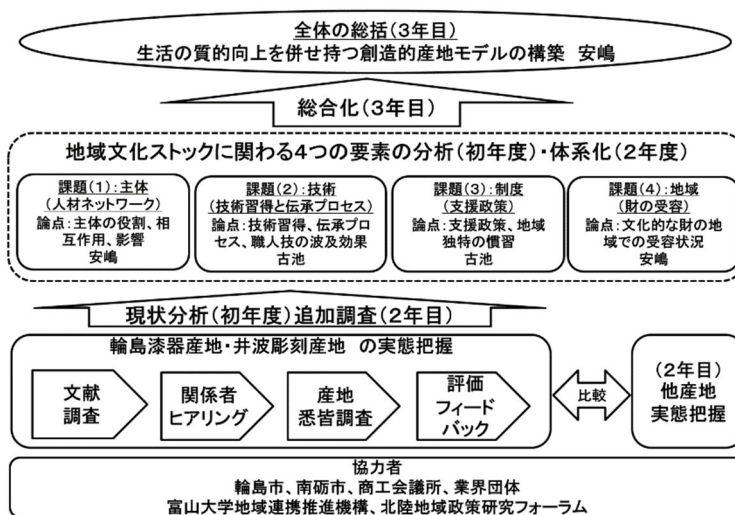
そこで本研究では、「地域文化ストック」の分析概念を確立し、産地再生論へつなげていくことを目的とする。特に循環時における地域文化ストックの構成要素の検証と相互関係の分析を行うことで、伝統産地において機能してきた「地域文化ストック」が、現代の産地で持続的に創造される諸条件を明らかにし、普遍性のある創造的クラスターモデルの構築で伝統産地再生の道筋を拓いていく。

2. 研究の目的

本研究では、地域文化ストックという地域包括的な分析ツールを用いることで、文化的な資源の共有関係が生活と生産に相乗効果を生み、その循環が創造的クラスターモデルを構築することを提示することを目的とする。事例として取り上げる輪島と井波はいずれも、工業化が可能な環境だったのにも関わらず、時代に翻弄されず、職人技を堅持し続けた産地である。大量生産システムの導入により、生産と生活が切り離された多くの伝統産地と異なり、それらが表裏一体となって産地を維持できた仕組みは、それ自体が社会実験の結果でもあり、その要素を精緻に分析する本研究は、地域創生にも活路を拓くものである。

3. 研究の方法

本研究では、地域文化ストックとその循環を活用した創造的クラスターモデルを提起するため、地域文化ストックに影響を与える4つの要素の分析を行い、最終的に総合化し産地再生の創造的クラスターモデルの構築を目指すものである。概念は右図のとおりで、(1)主体：文化的な財を生産する人的ネットワークの検証、(2)技術：文化的な財を生産する職人の技術習得と伝承プロセスの検証、(3)制度：文化的な財の産地を支える政策の検証、(4)地域：産地における文化的な財の受容状況の検証を行う。



研究体制および研究スケジュール概念図

そして実態調査で得られたデータや情報を活用し、これらの抽出された要素から産地モデルの政策理論を体系化する作業を行うものである。

4. 研究成果

本研究は、伝統産地の動向分析のためのツールとして、新たに打ち立てた「地域文化ストック」の有効性を明らかにすることである。地域文化ストックとは、一般的な文化資本に生活文化を融合した概念、すなわち地域内での生活や人々のつながりで生成される文化的な共有感などを加味したものである。

研究の途中、新型コロナウイルス感染症（COVID-19）によって国内での移動制限により調査が予定通り進まず、延長することになった。しかし調査対象が、輪島漆器産地と井波彫刻産地であったため、対象地での調査は継続することができた。そこで輪島漆器産地、井波彫刻産地の実態調査および比較対象産地の実態調査を行い4つの課題の解明に取り組んできた。

（1）主体

まずは人的ネットワークの検証である。主体の役割、主体同士の関係性と相互作用、地域社会との関係性、波及効果等を明らかにするための基礎データの整備を進めた。過去の文献や資料等を中心に調査を行い、調査結果に基づき行政、組合から産地概要に関する聞き取り調査を実施した。輪島漆器産地では、輪島市漆器商工業課、石川県立輪島漆芸美術館、輪島漆器商工業協同組合、輪島漆再生プロジェクト実行委員会などのヒアリングの実施や、各団体が主催するセミナーに参加し、一部セミナー講師などを担いながら産地の実態把握を行った。井波彫刻産地では、産地の視察を行い、南砺市世界遺産・文化課、商工企業立地課、井波まちづくり協議会などにヒアリングを行い、各種データの収集や支援施策の状況の把握を行った。

（2）技術（技術習得と伝承プロセス）

文化的な財を生産する職人の技術習得と伝承プロセスの検証である。職人の具体的な技術習得、伝承のプロセス、職人技の波及効果などを明らかにするための基礎データを整備した。さらに職人へのヒアリングを行い、具体的な職人の技術習得と伝承プロセスを明らかにした。

（3）制度（支援政策）

文化的な財の生産地を支える政策の検証である。伝統産地を支える政策や地域独特の慣習を明らかにするための基礎データを整備した。主に国や自治体のホームページ等から現状およびこれまでの支援施策などの調査を行い、地域独特の慣習については、自治体や地域住民からヒアリング調査を行った。団体や行政、事業者などへのヒアリングを通じ、施策などの最新の情報の収集と整理を行い、産地の状況と具体的な施策内容、その効果を明らかにすることができた。

（4）地域（財の受容）

産地における文化的な財の受容状況の検証である。文化的な財やそれを生み出す職人労働が地域内でどのように受容されてきたのかを明らかにするための基礎データを整理した。さらに市史や資料などを参考に調査を行い、行政から産地での文化的な財の受容状況の聞き取り調査を実施した。さらに事業者や地域組織のヒアリングから、輪島漆器産地には神事を基盤とした御当組と呼ばれる同級生の紐帯機能があり、輪島固有の塗師屋文化がこの紐帯によって循環していること、また井波には瑞泉寺の仏教信仰を基盤とした「土徳の里」の精神風土が存在し、井波の職人思想に影響を与えていることを明らかにした。これらの内容は、2019年の文化政策学会で「伝統工芸産地の文化資源ストック～輪島と井波の比較から～」として報告を行うとともに、2020年3月に「輪島漆器からみる伝統産業の衰退と発展」（晃洋書房）を出版した。

さらに、これらを深めていくために、団体や職人へのヒアリングを実施した。輪島の「御当組」は、数え40歳の厄年に地域の神事を1年間担うもので、時代背景や参加メンバーによって実施形態は異なるが、神事はほぼ同一であり、そのプロセスで地域の共通基盤を理解していく。一方で井波の「土徳の里」の根底にあるのは浄土真宗である。井波を含む南砺市で受け継がれる「人」「自然」「風物」「考え方」など土地がもつ固有の文化であり、人を敬い慈しむ品格の高い信仰心である。いずれも言語化しにくい思考や精神性などに関する事で、地域のさまざまな主体、産地の技術、制度と関わっていることが明らかとなった。

（5）総括

本研究によって地域文化ストックの構成要素（主体、技術、制度、地域）の検証を行い、この調査から寺社などを中心とした神事や仏事、寺社での日常の行事などから醸される地域の共有感が地域基盤の形成に関わり、産地形成に有効に作用しているという仮説を確認することができた。また比較可能な近隣の伝統産地（高岡漆器、高岡銅器、越中福岡の菅笠）などの調査研究を行ったところ、特に越中福岡の菅笠では、地域固有の信仰心や精神文化があり、産地形成に作用していることも明らかとなった。

さらに見えてきたのは産地内で起こる技術的なイノベーションである。単なる伝承ではなく、新たな商品開発などに産地内での共有感が有効に作用しており、この件は今後の検討課題として継続的に取り組む必要がある。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計8件（うち査読付論文 3件 / うち国際共著 0件 / うちオープンアクセス 1件）

1. 著者名 安嶋是晴	4. 巻 新春
2. 論文標題 伝統工芸再生と産業観光	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 地域づくり in 北陸	6. 最初と最後の頁 12-15
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 安嶋是晴	4. 巻 第24回令和元年度
2. 論文標題 富山県呉西地区の希少伝統工芸品を活かした産業観光に関する研究 越中福岡の菅笠を中心に	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 北陸地域づくり協会『「北陸地域の活性化」に関する研究事業論文集（第24回令和元年度）』	6. 最初と最後の頁 15-20
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 安嶋是晴	4. 巻 第30号
2. 論文標題 富山県呉西地区における産業観光の実態とその可能性	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 地域公共政策学会『地域公共政策研究』	6. 最初と最後の頁 29-34
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 安嶋 是晴	4. 巻 29号
2. 論文標題 輪島漆器産地における重層的な地域コミュニティの意義と役割 年齢組織の御当組を中心に	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 地域公共政策研究	6. 最初と最後の頁 1 - 10
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 安嶋 是晴	4. 巻 14
2. 論文標題 伝統的工芸品における産業拠点施設の課題と展望 高岡地域地場産業センターの改善提案の取り組みから	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 富山大学芸術文化学部紀要	6. 最初と最後の頁 50-55
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 安嶋 是晴	4. 巻 第9号
2. 論文標題 輪島漆器産地における職人育成システムと教育機関	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 国際文化政策	6. 最初と最後の頁 13-26
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 安嶋 是晴	4. 巻 第28号
2. 論文標題 漆器産地における漆植栽事業の実践と展開 昭和40年代以降の輪島の植栽事業から	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 地域公共政策研究	6. 最初と最後の頁 47-57
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 古池 嘉和	4. 巻 55巻第4号
2. 論文標題 地域ブランドの研究 波佐見を例に	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 名古屋学院大学論集(社会科学篇)	6. 最初と最後の頁 43-49
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計11件（うち招待講演 4件 / うち国際学会 0件）

1. 発表者名 安嶋是晴
2. 発表標題 伝統的工艺品産地における文化資本の機能
3. 学会等名 実践経営学会北陸支部
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 渡邊雅志・安嶋是晴
2. 発表標題 産学連携による商業施設での大学展示の実践
3. 学会等名 北陸地域政策研究フォーラム
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 安嶋是晴
2. 発表標題 輪島漆器から見る伝統産業の衰退と発展
3. 学会等名 北陸地域政策研究フォーラム
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 古池 嘉和・安嶋 是晴
2. 発表標題 伝統工芸産地の文化資源ストック輪島と井波の比較から
3. 学会等名 文化政策学会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 安嶋 是晴
2. 発表標題 伝統産業で生きるとは
3. 学会等名 漆芸の未来を拓く 生新の時2019
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 安嶋 是晴
2. 発表標題 富山県呉西地区における産業観光の実態とその可能性
3. 学会等名 北陸地域政策フォーラム
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 安嶋 是晴
2. 発表標題 輪島市の産業・観光・まちづくり～公共交通の利活用の在り方を考える～
3. 学会等名 伝統産業を中心とした体験型産業観光プラットフォーム構築支援事業 第1回勉強会（招待講演）
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 安嶋 是晴
2. 発表標題 産業観光の拠点を結ぶ ～近隣事例を基に拠点を結ぶルーツとして～
3. 学会等名 伝統産業を中心とした体験型産業観光プラットフォーム構築支援事業 第2回勉強会（招待講演）
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 古池 嘉和
2. 発表標題 文化資本としての物語観光 近代輸出陶磁器を例に
3. 学会等名 文化経済学会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 古池 嘉和
2. 発表標題 陶磁器と文化観光～瀬戸焼・常滑焼を例に～
3. 学会等名 国際文化政策研究教育学会（招待講演）
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 古池 嘉和
2. 発表標題 文化と観光の形～白川郷・五箇山を例に～
3. 学会等名 国際文化政策研究教育学会（招待講演）
4. 発表年 2019年

〔図書〕 計1件

1. 著者名 安嶋 是晴	4. 発行年 2020年
2. 出版社 晃洋書房	5. 総ページ数 200
3. 書名 輪島漆器からみる伝統産業の衰退と発展	

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究 分 担 者	古池 嘉和 (KOIKE Yoshi kazu) (50340063)	名古屋学院大学・現代社会学部・教授 (33912)	

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関